東京パラリンピックテニス出場を目指す

坂口竜太郎（さかぐちりょうたろう）くん、ダイバーになる!!

奄美大島の海で



スロープがついているプールは
エントリーも快適

２歳８ヶ月のときに交通事故に遭い、脊髄損傷・胸椎２番から４番完全損傷。そのため、下半身麻痺の障がいを持つ、坂口竜太郎くん。事故のあとすぐ、車いすテニスを始め才能が開花。2016 年度車いすテニス国内ジュニアランキング１位、さらに、東京パラリンピック出場を目指して日々トレーニングを重ねる。そんな竜太郎くんが、ゼログラヴィティでダイビングのＣカード講習に挑戦する！

写真：越智隆治　文：稲生薫子　取材協力：ゼログラヴィティ











「子どもたちみんなで一緒に潜れたら……」

奄美大島南部にあるゼログラヴィティの清水ヴィラは、「障がい者と健常者が共に安心・安全に楽しめるマリンスポーツ総合施設」をテーマにしています。

その施設を使って、今回は坂口竜太郎くんがダイビングのＣカード講習に挑戦するのですが、本編に入る前に、坂口ファミリーと親交が深い越智カメラマンよりメッセージを届けたいと思います。





東京パラリンピックテニス出場を目指す

坂口竜太郎くん、ダイバーになる!!

最初にゼログラヴィティを訪れたとき、真っ先に頭に思い浮かんだのが、自分の息子の友達家族のことだ。僕の息子たちと同じ中学校、小学校に通う２人の息子さんがいて、どちらも同級生。

長男と同級生の坂口竜太郎くんは、交通事故で下半身に重度の障がいがあり、車いすに乗っての生活。いろいろと不便なこともあるとは思うのだが、持ち前の明るさと運動神経で、今までに竜太郎くんが挑戦したスポーツは、テニス、バスケ、野球、空手、登山、サーフィン、スキー、バドミントン、卓球、など多岐にわたり、テニスに関しては、多くの大会で優勝していて、パラリンピック出場を目指すほどの腕前。

坂口ファミリーとは、数年前にもミクロネシアのヤップ島を一緒に訪れて、ジャングル探索、スノーケルや体験ダイビングを楽しんだ経験もあり、チャレンジ精神も旺盛。僕の息子たちと「早く一緒にダイビングしたい!」と、今回の講習も開始前からやる気満々。この前向きな姿勢も本来の彼の性格だけでなく、何ごとにもトライさせてきたご両親の育て方が大きく影響しているといつも感じていた。

今回の目標は、竜太郎くん、そして弟の颯之介くんのジュニアＣカードを一挙取得！　障がいを抱えている子と、抱えていない子が一緒にＣカード講習が受けられるというのもゼログラヴィティの大きな魅力だ。

ここに来る前に、息子たちと「いつか一緒にダイビングしようよ!」としっかり約束も交わしてきていたそうだ。子どもたち４人で一緒に潜れる日が来たら、ここに滞在して、一緒にダイビングさせたいという思いも大きくなってきた。

僕は今回、撮影担当で坂口ファミリーと一緒にゼログラヴィティを訪れ、２人がどんな風にＣカードを取得していったかを側で見守った。冬には、他の障がいを持つ友達に声をかけて、「ゼログラヴィティの船で、奄美で見られるザトウクジラのホエールウォッチングも企画したいね」なんて話も出ている。

さあ、２人のＣカード取得までの奮闘ぶりをぜひ、ご覧ください。（文・越智隆治）

©ocean+ α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

STEP 1 学科講習

さぁ、ダイバーへ！

まずはお勉強



真剣に勉強するときは
するんです



理解できるまで先生に質
問ができる恵まれた環境



楽しすぎてなかなか
講習が進まない

余計な会話は ひとつもない!? 笑い声が絶えない学科講習

「あ、それってさ〜○○ってこと〜？」「たとえばさ〜、△△ってこと〜？」ギャハハハハハー！　子どもたちと先生の声が響き渡ります。

今回、ダイビングのCカード講習を受講しているのは、下半身に障がいのある竜太郎くん（りょうくん）と、弟の颯之介くん（そうくん）兄弟。お兄ちゃんがダイバーになると聞いて、「僕もダイバーになりたい！」と兄弟そろって講習を受けることになりました。実は、２人のご両親はノンダイバー。子どもがダイビングを始める場合は、保護者がもともとダイバーであることが多いのですが、今回は珍しいケースでご両親は見守ることしかできません。

さて、どのような講習になったのでしょうか？

ダイバーになるためには、「学科試験」「限定水域講習（プール講習）」「海洋講習」の３ステップをクリアしなくてはならず、第一関門は、「学科試験」です。ただ、まずは楽しんで講習を受講することが最も大切。

今回の先生であるゼログラヴィティの山下豊さんは「僕は教本や教材は基本的には使いません、全部自分の言葉で受講生が理解できるまで説明します」と言います。

今回の奄美大島のようなリゾート地でCカードを取得する場合は、時間が限られているので、事前に教材が送られてきて、それを学科試験の日までに自分で読んで勉強して備えるか、あるいは、e-ラーニングで勉強するというスタイルも少なくありません。なので、今回山下さんの言葉を聞いてびっくりしましたが、確かに、生徒が子どもの場合は、なおさら教材を使わずに言葉で説明したほうがわかりやすいですね。

学科講習を少し聞いていたら、子どもたちが「あ！わかったーそれってさ〜○○○○でしょ〜？」と楽しそうに別の話にすり替える場面が多発。しかし先生も負けじと「せやで〜」と言いながら和気あいあいと、とても楽しそう。かといって、ふざけてばかりではなく、大事なところはしっかり押さえ、頭に叩き込んでいきました。

休憩時間にも「復習する〜！質問出して〜」と、先輩ダイバーでもある越智カメラマンのところに持ってきたノートには、ダイビングのいろはがびっしり。

Q 水深 20 mのときは、何気圧になりますか？
「3 気圧ー！」
Q 水中にあるものは、陸上にあるものに比べてどう見えますか？
「3/4 ？あれ、4/3 ？……4/3 大きく見えるー！」

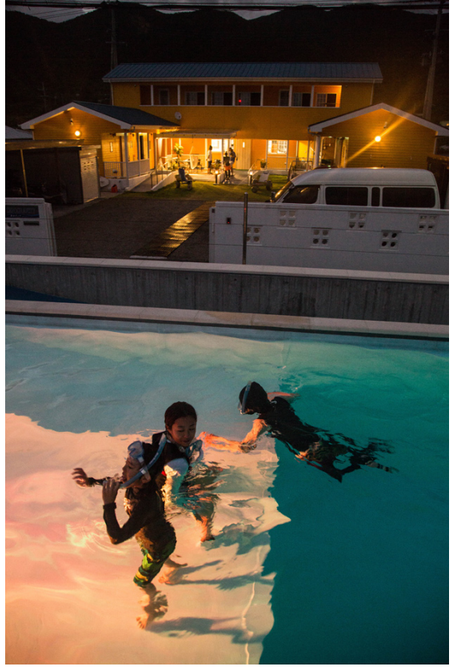
など、難しい問題もきちんと覚えていました。

もう我慢できない！ プールで遊びたい！

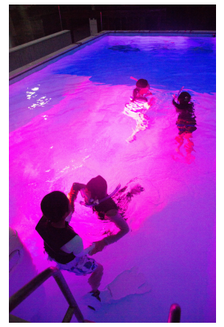
学科講習が夕方ごろに無事に終わると、子どもたちの“遊びたいモード”が爆発。「学科試験は明日がんばる」と先生と約束して、夕方のプールに飛び込んでいきました。

りょうくんは、ゼログラヴィティに常設されている水に濡れても大丈夫な車いすに乗り換え、スロープを下りて水の中に入ります。水に入るまでは元気だったその姿も、いざ水に入ると「プール、久しぶりで怖いから、絶対に手を離さないで！近くにいて！」と少し怯えた様子。しかし 10 分ほど一緒に練習していくうちに、「1 人で泳いでみたいから、溺れそうになったら助けてくれる？」「1 人で向こうまで泳いでみるから、向こうで待っていてほしい」と急にひとり立ち。

暗くなった後のプールは幻想的にライトアップされ、水への恐怖心も解け、さらにテンションの上がったりょうくんたちは、ひたすら泳ぎ回ります。大人たちの「もう帰ろうよ〜」の言葉は聞こえていない様子（笑）。「怖くないと思うまでとことん寄り添えば、きっとどんな子どもでも１人で泳げるようになる」そう思えた瞬間でした。



施設の目の前にスロープ
付きのプールが完備





そのころ、お父さんとお母さんは……

子どもたちががんばって講習しているころ、お父さんとお母さんは施設をぬけ出し、奄美大島を大満喫！　海洋実習で潜る海を高台から眺め、ハートに見える丘に登り、変わった海の音が聞こえるホノホシ海岸を楽しんでいました。子どもたちも、ある意味リラックスしてお勉強できたのかも!?







ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
https://zerogravity.jp/
click 関連情報HPへ

STEP2 プール講習 海洋実習 1回目

いよいよ 水中の世界へ！



1人でプールの中を移動するりょうくん



器材セッティングの講習風景

兄弟バディで協力して乗り越える

灼熱のプールサイドに器材を用意して、初めての器材セッティング。りょうくんのように体に障がいのある受講生は、準備の手順を口頭で説明して、バディ（今回はそうくん）が言われた通りにセッティングし、インストラクターがOKを出せば合格です。りょうくんも無事一発合格！　いよいよ、器材をつけてプールに入ります。

車いすを降りて水中へスキルの練習スタート

水に濡れても大丈夫な車いすでプールのスロープを下り、車いすから降りてから水面に浮き、器材を装着します。ゆっくりと潜降し、プールの中では健常者と同じスキルの練習。マスククリア、レギュレーターリカバリー、コンパスの見方などを習得し、午後の海洋実習に備えます。

前日夜にプールで遊びまくったおかげで、水に恐怖心がなくなっていたりょうくん。難なく、プール講習もクリアです！

今回のプール講習は兄弟1人ずつ行ったため、弟のそうくんがプール講習をしている間、りょうくんは学科試験。「うーん、これ何だったっけー？」と眉間にしわを寄せながらもがんばっていました。

施設から徒歩0分のビーチで海洋実習

午前中にプールで練習したことを、午後は実際に海で練習。プールとは変わり、波もあるし足が届かないし、ということで海に入る前はしきりに「怖い、怖い」と言っていたりょうくん。「じゃあやめる？　やめてもいいけど、ダイバーにはなれないよ」というインストラクター山下先生のひとことで、「いや、ダイバーになりたいからやります！」と闘争心を取り戻し、いざ海へ。

入る前まであれほど「怖い怖い」と言っていたにも関わらず、海に入った瞬間「さかなーー！」と指差しをするりょうくん。なんだよ〜、心配して損した（笑）。小さなスズメダイがサンゴの間をうろちょろしている姿に感動した様子。

そのあとは、プールで練習したダイビングスキルを問題なくやってのけ、無事ビーチでの海洋実習が終了。翌日にボートに乗って、もっと深い海で実習をしたらおしまいです。ダイバーまで、あと1歩！



下半身が不自由でも椅子などを使用するので負担なく講習を受けられる

レギュレーターを使用する練習





車いすで海辺まで移動

夜はBBQでワイワイ

学科試験も終え、プール講習と限定水域講習も終え、残すは海洋実習のみとなりました。ここでちょっと一息。ゼログラヴィティの中庭にてみんなでBBQ。肉に魚に新鮮なお刺身にやきそばにと大満足！　大人はおいしい奄美大島の焼酎でいい気分でした。



東京パラリンピックテニス出場を目指す

坂口竜太郎くん、ダイバーになる!!

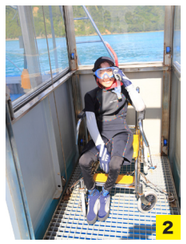
2018 Summer [Amamioshima]

©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

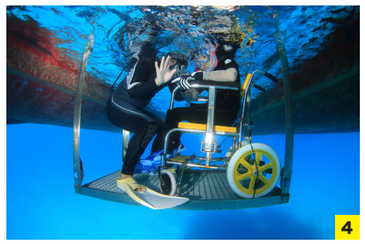
STEP3 海洋実習 2日目

バリアフリーのボートで奄美ブルーの海へ！


1

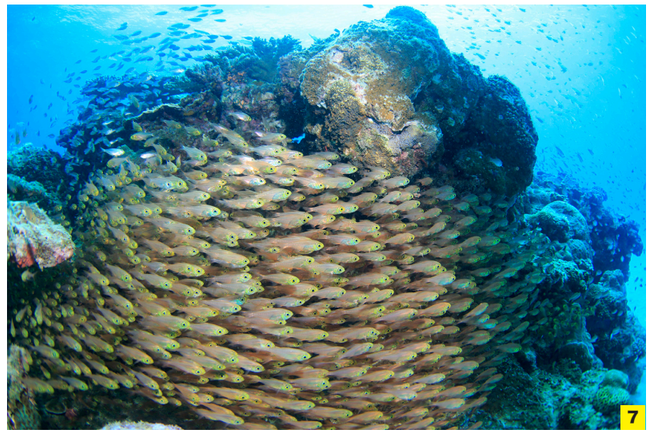

2


3


4


5


6


7


8


9

1 備え付けのスロープで車いすのまま船へ
2 エレベーター付きリフト
3 確認を念入りに行う２人、ちょっと緊張しているかな？
4 リフトに乗ったまま水中へエントリー
5 兄弟そろって初めてのダイビング
6 初めての水中世界に大興奮
7 キンメモドキが根を覆う
8 色鮮やかなキンギョハナダイの乱舞
9 キイロサンゴハゼが大量に群れているポイントも



クロマグロ養殖日本一を誇る奄美大島南部！

車いすのまま乗船 快適な船上時間

ゼログラヴィティでは、車いすを使用するダイバーでも利用しやすいようバリアフリーに改造された船を所有しています。船内には、車いす専用のエレベーターを設置しており、車いすに乗ったままのエントリーが可能。そして、船の通路はすべて車いすが通れる広さが確保され、トイレも広くウォッシュレット付き、バリアフリーの温水シャワーも併設されているので、車いすでも問題なく過ごせるようになっています。そんな快適な船に乗船し、古仁屋の港から 10 分ほど船を走らせ、最後の講習へ。

船からはリフトを使ってらくらくエントリー

ポイントへ到着したらさっそく、海洋実習の開始です。

まず、車いすからエレベーター付きリフトに常設された椅子へ座り替え、フィンを履き、マスク、スノーケルをつけます。インストラクターがリフトに同乗するので恐怖も少なく、そのまま水面まで降り、そこであらかじめ用意してある器材を装着します。あとは、今まで練習したことを最大限に発揮するのみです。

プールとも、ビーチポイントとも違う“奄美ブルー”の海を初めて体感したりょうくんは、ホクホクの笑顔でエキジット。

「めっちゃきれいだった〜！魚もいたよ〜！！」

えーと、講習はどうだったかな？

「うん、大丈夫！（笑）」

東京パラリンピックテニス出場を目指す

坂口竜太郎くん、ダイバーになる!!

©ocean+ α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

STEP4 Cカード GET!

ついにダイバーデビュー！

ダイビングを通じて得た新しい世界

　スキルチェックをする講習は終わったので、あとは２人で楽しくファンダイビングができれば、合格です！
　トロピカルな魚がたくさん群れている根に遊びに行き、初めてたくさんの魚と戯れ、無事にファンダイビング終了。そして、見事に「Cカード GET！」。

　船に上がったときの表情は、３日前に奄美大島に来たときよりもずいぶん大人びて見えました。「ダイバーになった！」ということがすごく自信になったのだと、その表情から見て取れます。

　ただ「海に潜る」というだけでなく、りょうくんたちのようにダイビングを通してお互い助け合う精神や、「自分に自信を持って生きていく」ということを、もっと多くの子どもたちに体験してもらえれば、そんなきっかけがダイビングだったらうれしいなと思います。

講習が終わったら家族で海遊び

3日間の講習を終えて、さぞかしヘトヘトかと思いきや、やっとお父さんお母さんと遊べるー！と、海に飛び出していった子どもたち。
　すっかり海が大好きになったようで日が暮れるまで、家族４人でたくさん遊んでいました。





©ocean+ α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
https://zerogravity.jp/
click! 関連情報HPへ

Cカード講習 一問一答

すっかり
海が大好き！

竜太郎くんとご両親に聞きました



竜太郎くんに聞いた ダイビングや海への想い

持ち前の運動神経で、さまざまなスポーツに挑戦してきたりょうくんも、ダイビングは自身初めての海のスポーツ。どういうところが楽しかったか、どんなところに不安を持ったかなどを答えてくれました。

Q1 もともと海は好きでしたか？

海は好きだけど、海に入るのはちょっと……。でも多分今回で克服できたと思う。もともと魚を見るのは好きだったから。

Q2 初めて海の中に入ったときの感想は？

開放感があって気持ちが良かった。海は少し寒かった。

Q3 講習で、一番楽しかったことは何ですか？

全部楽しかった！！

Q4 ゼログラヴィティの施設で、使いやすかったところと使いにくかったところを教えてください。

バリアフリーですべて使いやすかった。船についているエレベーターは、初めは少し怖かった。

Q5 講習で、一番難しかったことは何ですか？

レギュレーターリカバリーで、手を回してホースをとるところと、マスクの中に水を入れる練習かな。あと学科試験も難しかった。

Q6 テニスとどっちが大変？

そんな風に考えたことないけど、ダイビングは道具が多かったり準備や移動が自分でできなかったりするから大変だったかなぁ。

Q7 Cカードを取って、手元にカードが届いたときの気持ちを教えてください！

生まれて初めての資格だったのでうれしかった。

Q8 次はこんな遊びがしたい！などあれば教えてください。

もっといろんな魚を見たい。おもしろいところに行きたい、不思議な場所とか！海外の海にも行ってみたい！

Q9 最後にCカードを取る子どもたちに、応援メッセージをください。

最初は怖いかもしれないけど、慣れてCカードが取れたあとは楽しいから、怖がらずにやったほうがいいと思う！



ご両親に聞いた 子どもたちへの想い

冒頭でもご紹介した通り、ご両親はノンダイバーなので、子どもたちがダイビングのCカードを取得するということに対して不安などはなかったのか、どのような心境で見守っていたのかなどを伺いました。

Q1 ご両親がダイバーではないのに、子どもたちがCカードを取得するとなったとき、不安ではなかったですか？

最初は不安でいっぱいでしたが、講師の方やスタッフのみなさんが親切で丁寧に対応してくれて、安心してお任せできました。

Q2 Cカードを取得する前と後で、子どもたちの様子に変化はありますか？

今はまだ冬なのでプールに行って泳ぎたいね！とか、また泳ぎに奄美大島に行きたいね！と言っています。

Q3 今後、家族でここに行ってみたいなど、ありますか？

海の話はしょっちゅうしますね。やはり奄美大島にはまた行ってみたいです。

Q4 実際に子どもが海でがんばっている姿を、どんな心境で見ていましたか？

特に長男はマンションのエレベーターですら耳ぬきができないので心配でしたが、思いのほか、楽しそうにチャレンジしている子どもたちをたくましく感じました。

Q5 今回のCカード取得ということで、全体的に感じたことや思ったことがあれば教えてください。

不安は当初の心配ほど必要なかったと感じました。これもひとえに受け入れてくださっている宿や講師の方のご尽力の賜物です。感謝の気持ちでいっぱいです。

Q6 同じような境遇のご家族にメッセージがあればお願いします。

Cカード講習の様子をSNSにアップしたら、一週間も経たないうちに北海道のご家族からメッセージをいただきました。「障がいがあってもチャレンジする気持ちがあればなんだってできる！」そして親は「真剣に必死にそれを支えて応援すること」が大切だと思っています。

ocean+α ©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

障がい者と健常者が共に安心・安全に楽しめるマリンスポーツ総合施設「ゼログラヴィティ」













今回講習してみて、2人とも元気いっぱいで、僕が逆に元気とチャレンジ精神をもらいました。“ 遊ぶときは遊ぶ ”“ 学ぶときは学ぶ ” のメリハリが見ていて気持ちが良かったです。以前、りょうくんは耳ぬきがうまくできなかったと聞いていたので、正直、不安要素はありましたが、水深 6、7m まで行けたときは、うれしくて水中で叫んでいましたね（笑）。C カード取得が今回の目標でしたが、これからはいろんな場所で、いっぱい潜ってほしいです。

これからダイビングをしてみたいという子どもたちには、何事にもチャレンジしてほしいと思っています。「努力は必ず報われる」と思っているので、「水中世界を見てみたいな」「やりたいけど……」って思った子は、まずは僕たちに連絡をしてみてほしいです。僕ががんばるのはもちろんですが、一緒に歩んで行きたいと思っています！

ゼログラヴィティ・スタッフ　山下さんより



施設全体として国内で見たことがないほどの整った施設でした。

安全性を重視し、至るところにさまざまな工夫が施されているので、もしこのあと子どもが 1 人で奄美に遊びに行きたいと言っても、こちらの施設であれば不安はありません。

自分はもちろんですが、子どもから障がい者まで安心してお任せできる 100 点満点の施設でした。

竜太郎くんのお父さん　剛さんより







障がい者の方がCカードを取得するにあたって必要な書類

■医師の診断書（健康診断書）
■既往歴告知書
■自己申告書

※レンタル器材や必要書類に関して不安のある場合はあらかじめゼログラヴィティにご確認ください。
※診断が下りるのに時間がかかる場合がありますので、なるべく早めの準備をおすすめします。

【お問い合わせ】
ゼログラヴィティ・清水ヴィラ
〒894-1521
鹿児島県大島郡瀬戸内町清水122
Tel.0997-76-3901

東京パラリンピックテニス出場を目指す
坂口竜太郎くん、ダイバーになる!!

©ocean+ α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます